

学校推薦型選抜（小論文） 2022 年度過去問題

学校推薦型選抜〔総合学科専門学科推薦〕

問. グローバル化の進展を背景に、世界規模での感染症の拡大がみられるようになりました。下記の文書は、今からおよそ 100 年前に猛威をふるった「悪性感冒」に対処するため、日本政府が国民に周知したものです。この文書を読んで時代の変化について考察し、現代との類似点や相違点を整理したうえで、あなたの考えを 800 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

流行性感冒は主に人から人に伝染する病気である。ひいた人が咳やくしゃみをする時、目にも見えないほど微細な飛沫が周囲に吹き飛ばされ、それを吸い込んだ者はこの病にかかる。ひいて治った人も当分の間は鼻の奥やのどにこのウイルスが残っており、また、健康な人の中にも鼻やのどにこのウイルスを持っていることがある。これらの人々の咳やくしゃみの飛沫も病人同様危険である。

かからぬには、病人または病人らしい者、咳する者には近寄ってはならぬ。たくさん人の集まっている所に立ち入るな。人の集まっている場所、電車、汽車などの内では必ず呼吸保護器（「ガーゼマスク」ともいう）をかけ、それだけでなく鼻、口を「ハンケチ」手ぬぐいなどで軽く被いなさい。塩水か微温湯にてたびたびうがいせよ。

かぜをひいたなと思ったなら直ぐに寝床に潜り込み医師を呼べ。ただのかぜと馬鹿にして売薬療治で安心するな。外出したり、無理をすると肺炎を起こし取り返しのつかぬことになる。病人の部屋はなるべく別にし、看護人のほかはその部屋に入れてはならぬ。看護人や家内のものでも病室に入るときは必ず呼吸保護器をかけよ。治ったと思っても医師の許しのあるまでは外に出るな。

ほかに気をつけるべきことは、家の内外を清潔に掃除し天気のあるときは戸障子を開け放て。寝具寝巻などは晴天の日には必ず日にさらせ。用心にほろびなし。健康者も用心が肝心。幼弱なる子供、老人、持病ある者はことに用心せよ。人前で咳やくしゃみをするときは公德を重んじ必ず「ハンケチ」か手ぬぐいなどで鼻、口を被え。病人のたん、鼻汁などで汚れたものは焼くか煮るか薬で消毒せよ。

（出典：内務省衛生局編『流行性感冒』に収録されている「流行性感冒予防心得」（大正 8 年（1919 年）1 月）をもとに、抜粋等のうえ、現代口語に近づけて表記した）

（脚注）

ウイルス：びょうどく。病気の原因のことで、当時、一般には「どく」と言われた。

売薬療治：ばいやくりょうじ。医師の処方を受けず、一般に販売される薬の服用で病気を治そうとすること。

戸障子：としょうじ。日本家屋において出入口や部屋の仕切りに用いる開閉可能な建具のこと。